

Veritas In Silico

Bringing new hope with mRNA-targeted drugs

2024年12月期（第9期） 第2四半期（中間期）決算説明資料

株式会社Veritas In Silico

東京証券取引所グロース市場：130A

2024年8月7日



免責事項

本資料は、株式会社Veritas In Silico(以下「当社」といいます。)の会社情報の説明のみを目的として当社が作成したものであり、日本国、米国その他の一切の法域における有価証券の買付け又は売付け申し込みの勧誘を構成するものではありません。日本国、米国その他の法域において、適用法令に基づく登録若しくは届出又はこれらの免除を受けずに、当社の有価証券の募集又は販売を行うことはできません。

本資料の作成にあたり、当社は当社がその作成時点において入手可能な情報の真実性、正確性及び完全性に依拠し、かつ前提としており、将来情報、外部データ等については、その真実性、正確性及び完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。

将来の事業内容や業績等に関して本資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、「目指す」、「予測する」、「想定する」、「確信する」、「継続する」、「試みる」、「見積もる」、「予期する」、「施策」、「意図する」、「企図する」、「可能性がある」、「計画」、「潜在的な」、「蓋然性」、「企画」、「リスク」、「追求する」、「はずである」、「努力する」、「目標とする」、「予定である」又は将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他の類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、本資料作成時点において入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいて作成しており、これらの記述の中には、様々なリスクや不確定要素が内在します。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の将来における事業内容や業績等が、将来に関する記述に明示又は黙示された予想とは大幅に異なることとなる可能性があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。

2024年12月期 第2四半期(中間期)ハイライト

mRNA標的的低分子創薬事業(プラットフォーム型ビジネス)は順調に推移

創薬プラットフォームibVIS®を活用し製薬会社4社との共同創薬研究を実施中。当中間期には、マイルストーン達成や、目標とする特性を細胞レベルで示す低分子化合物を複数取得する等の成果を得た

ハイブリッド型ビジネスの転換に向けて自社パイプラインを創出できる体制を整備中

かねてより進めていた当社独自の核酸医薬品の研究を再開
急性腎不全と筋萎縮性側索硬化症(ALS)の核酸医薬品パイプラインの事業化に向けて取り組み中

事業収益は115百万円、中間純損失は90百万円

事業収益は、研究支援金、マイルストーン収入等により115百万円を計上
事業費用182百万円、上場関連費用12百万円等の発生があり、中間純損失は90百万円

2024年12月期業績予想は変更せず

2024年12月期の業績見通しについては、2024年2月公表の内容より変更せず
下期中のマイルストーン達成や新規契約獲得等による収益確保を目指す

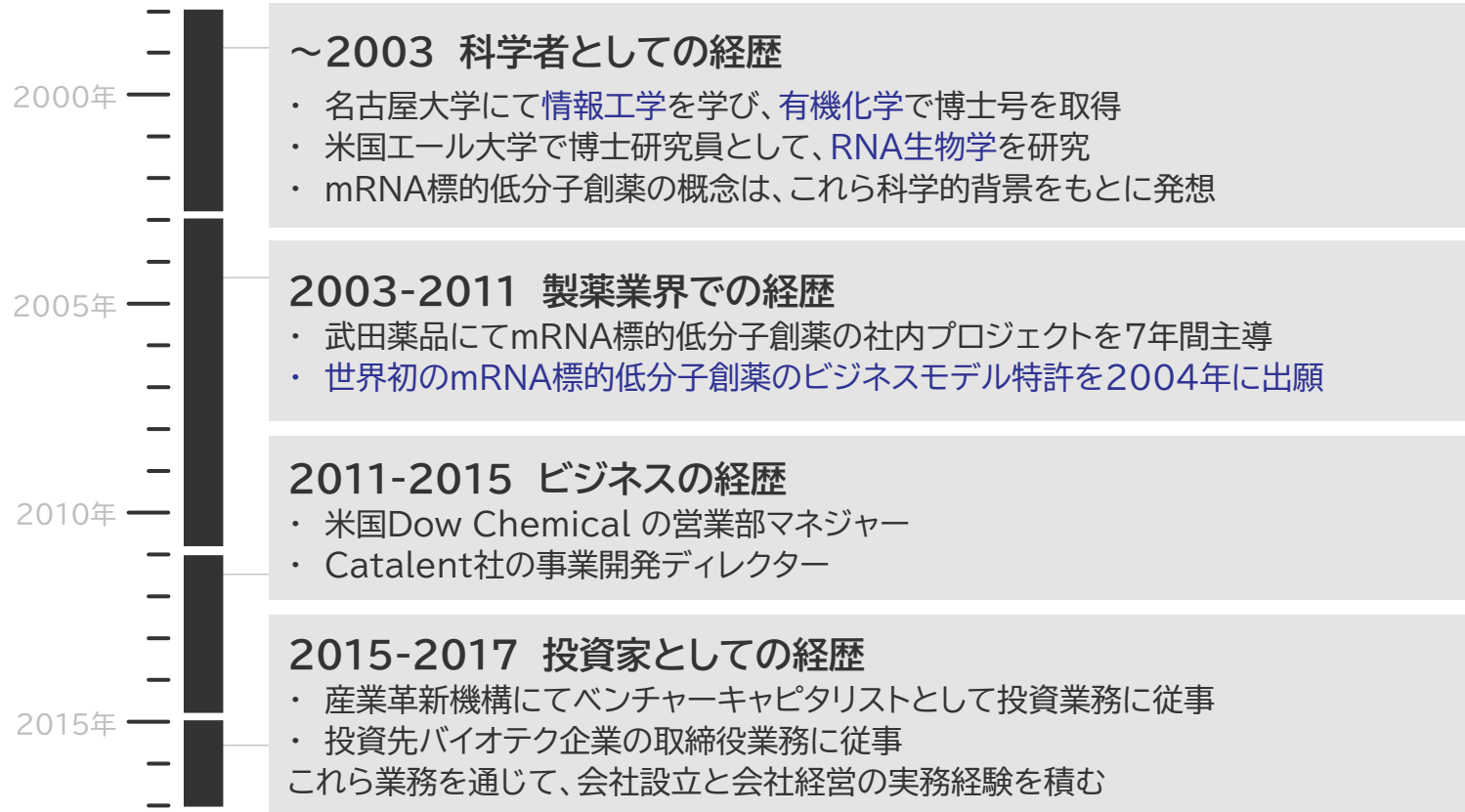
mRNA標的的低分子創薬を実現させた当社創立者のバックグラウンド

当社設立後、中村はバックグラウンドを最大限活用してmRNA標的的低分子創薬事業を本格化
三度にわたる資金調達ラウンドを成功させ、2024年2月にはIPOを達成



代表取締役社長
中村 慎吾 PhD

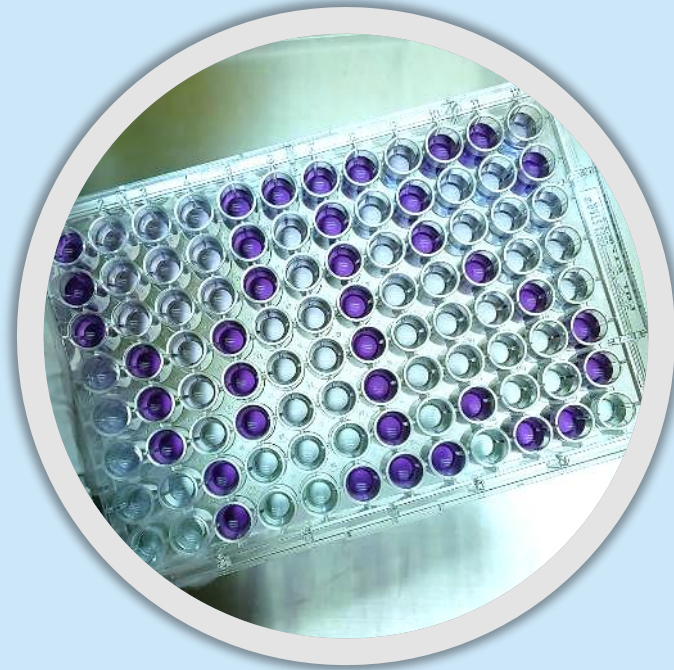
創薬研究から事業開発、営業、
企業経営、バイオテック企業への投資に
至るまで幅広い実務経験を有する



(注) 米国・ニュージャージー州に本社を置き、製薬会社及びバイオテック企業向けにデリバリー技術、医薬品製造、生物製剤、遺伝子治療薬、消費者向け健康製品を提供するグローバル医薬品受託製造会社(CDMO)

Contents

- 1 事業ハイライト
- 2 財務ハイライト
- 3 事業概要
- 4 ビジネスモデル
- 5 成長戦略

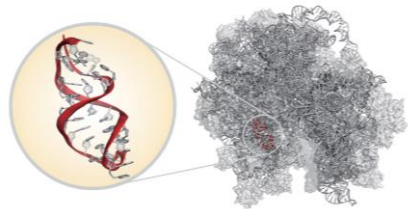


1 事業ハイライト

Business Highlights

2024年12月期 第2四半期(中間期)の事業ハイライト

▼2月



人工知能(AI)の活用に関する論文

RNA標的的低分子創薬の可能性を、AIにより最大限引き出すことについて論じたレビュー論文を当社主席研究員が発表

→スライドNo13.へ

▼3月



核酸医薬品の自社パイプライン創出に向けた取り組み

三菱ガス化学との共同研究に先行して、より効率よく活性の高い核酸医薬品を取得するための自社研究を開始

→スライドNo.30-32へ

▼6月



マイルストーン達成

複数の疾患を対象とした mRNA標的的低分子医薬品の創出を目的とした武田薬品との共同創薬研究において、研究段階における最初のマイルストーンを達成

→スライドNo.8へ

▼6月



化合物探索が順調に進展

がん治療薬の創出を志向するラクオリア創薬との共同創薬プロジェクトにおいて、細胞実験で目標とするプロファイルを示す複数の低分子化合物を取得

→スライドNo.9へ

武田薬品との共同創薬研究・ライセンス契約でマイルストーン達成

2024.06.19

Press Release

Veritas In Silico、武田薬品との共同創薬研究の進展に伴うマイルストーン達成のお知らせ

株式会社 Veritas In Silico (本社:東京都品川区、代表取締役社長:中村慎吾、以下「Veritas In Silico」) は、2023年6月23日に武田薬品工業株式会社 (本社:大阪府大阪市、代表取締役社長兼CEO:クリストフ・ウェバー、以下「武田薬品」) と締結しました共同創薬研究・ライセンス契約 (以下「本契約」) の下で実施しております共同研究 (以下「本共同研究」) において、この度研究段階における最初のマイルストーンを達成しましたのでお知らせいたします。

本共同研究では、Veritas In Silico独自の創薬プラットフォーム「ibVIS®」を活用し、武田薬品が選定した疾患に関連する複数の遺伝子に対して、mRNAを標的とする低分子医薬品の創出に取り組んでいます。本契約の締結以来、両社が共同して標的遺伝子のmRNAに作用する新規低分子化合物の探索を進めておりましたが、今般、本契約に定めるマイルストーンを達成するに至りました。Veritas In Silicoは、このマイルストーン達成に伴う一時金を武田薬品より受領し、2024年12月期第2四半期に収益計上を予定しております。

本マイルストーンの達成による2024年12月期の当社業績への影響につきましては、2024年2月13日に発表した当期業績予想に織り込み済みであり、当期の事業収益合計額 (676百万円予想) の1割弱を占める見込みです。

ラクオリア創薬との共同創薬研究において化合物探索が順調に進捗

がん治療薬の創出を志向するラクオリア創薬との共同創薬プロジェクトにおいて、互いの技術力の強みを活かし、細胞実験において目標とするプロファイルを示す複数の低分子化合物を取得した

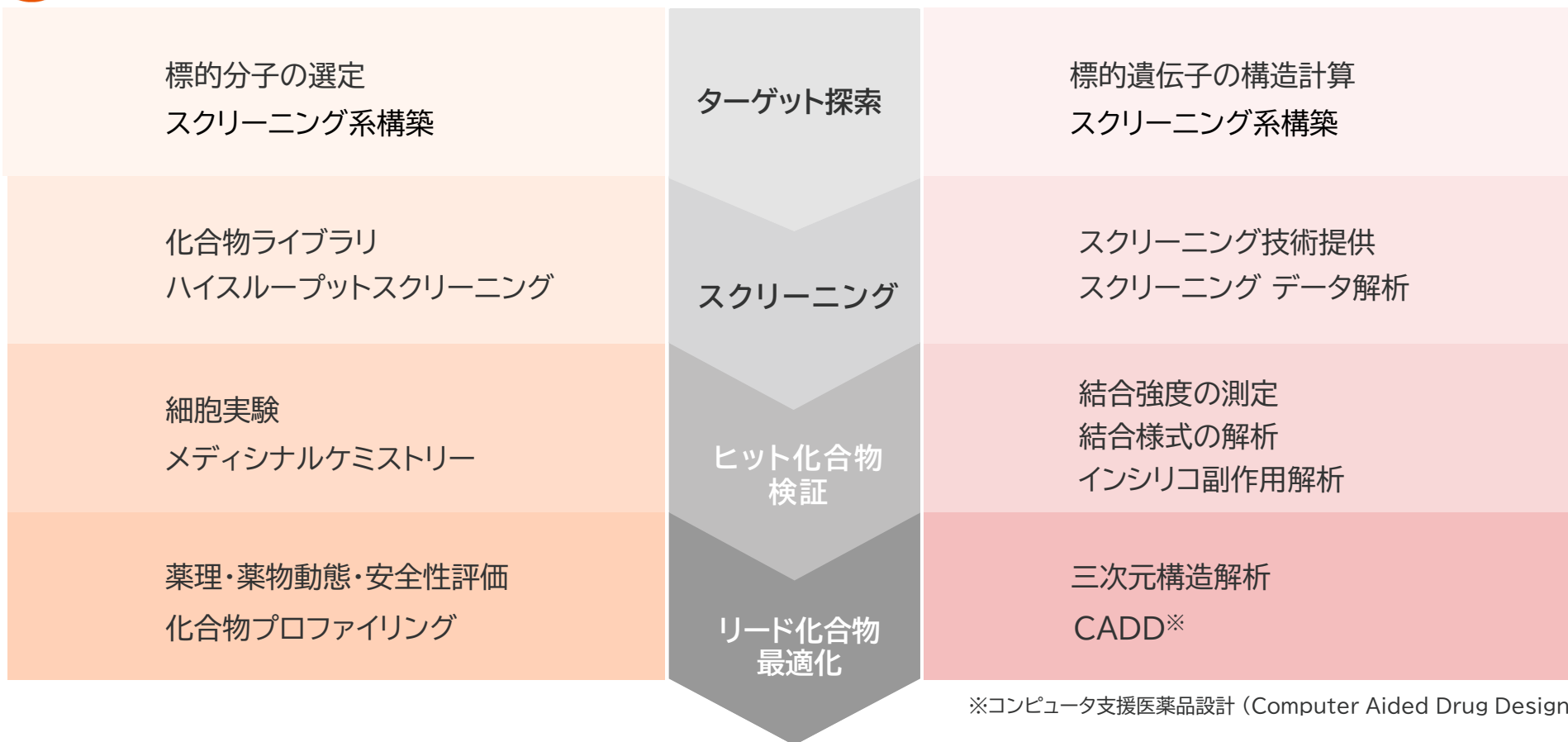


低分子創薬技術








Veritas In Silico

mRNA標的の低分子創薬プラットフォーム



※コンピュータ支援医薬品設計 (Computer Aided Drug Design)

各製薬会社との共同創薬事業において実績が積み上がっている

主な提携先	提携時期	対象疾患	創薬研究進行段階	経済条件
 Innovation by Chemistry	2021年7月	非開示	 <p>製薬会社との共同創薬研究で最も進んでいるプロジェクトは「ヒット化合物検証」の段階</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 契約金非開示 ・ VIS化合物持分あり^(注)
	2021年11月	感染症 精神・神経系疾患		<ul style="list-style-type: none"> ・ 契約金最大850億円 ・ ロイヤリティあり
	2022年12月	がん領域		<ul style="list-style-type: none"> ・ 契約金非開示 ・ ロイヤリティあり
	2023年6月	非開示		<ul style="list-style-type: none"> ・ 契約金非開示 ・ ロイヤリティあり

(注) 東レとの共同創薬研究では、医薬品候補化合物の権利は東レと当社で共有し、当社は化合物の持分に応じた収益を受領する

プラットフォーム型ビジネスの収益ポテンシャル

既存の共同創薬研究契約にもとづき短期的(創薬研究期間中)、中期的(開発期間中)な事業収益源を確保している

医薬品が上市された場合には、長期的(販売期間中)に販売額に応じたマイルストーン収入のほか、数%のロイヤリティ収入(下図に含まれない)が見込まれる

契約一時金・研究支援金・ 研究マイルストーン



- 取得済収益 (2021年~2024年6月)
- 短期的収益 (創薬研究期間中に受領可能性)

開発マイルストーン



- 中期的収益 (開発期間中に受領可能性)
- 長期的収益 (販売期間中に受領可能性)

売上マイルストーン



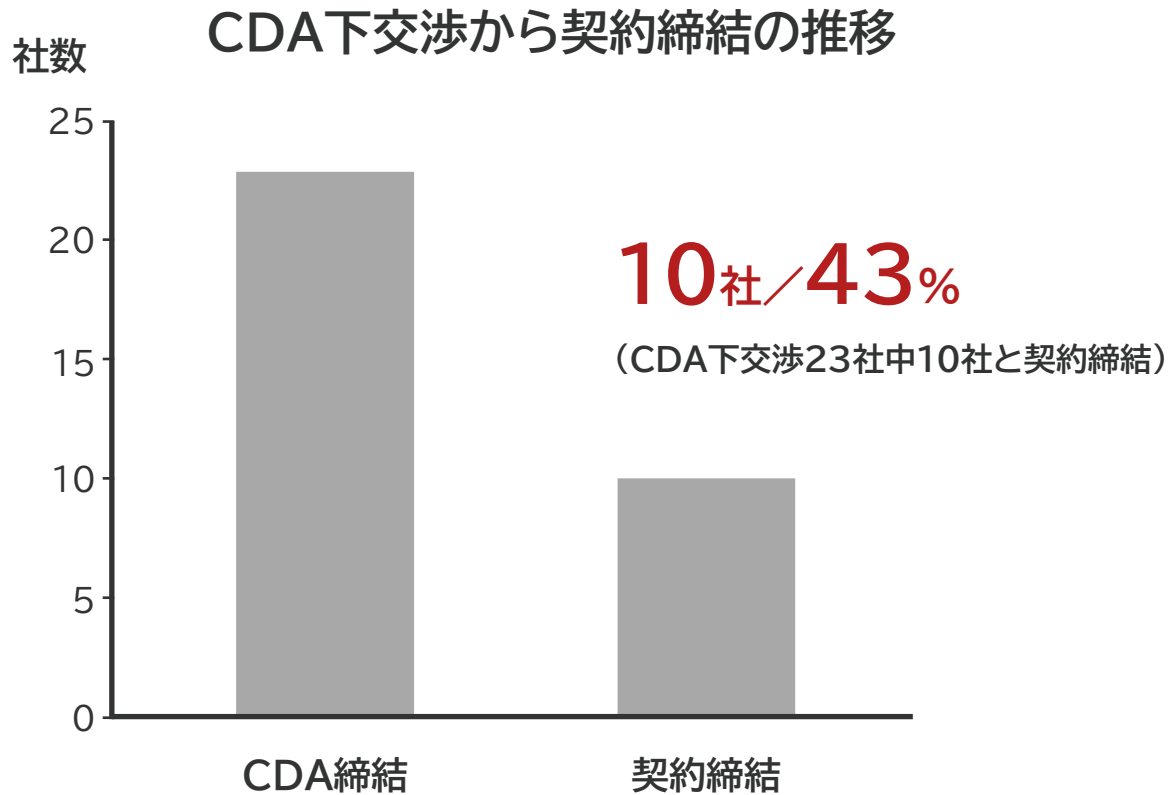
2024年6月末現在

➤ 新規契約による収益拡大

(注)取得済総額は、共同研究により取得した収益を含む。マイルストーンは、いずれも既存のプロジェクトが全て成功した場合の最大値を示している
創業の成功確率は相対的に高くはなく、現実的に全てのプロジェクトが成功するわけではない点に十分留意が必要である

年間2社との新規提携に必要な秘密保持契約数の確保

秘密保持契約(CDA)を締結した製薬会社のうち、CDA下の交渉の結果契約まで至った確率は43%、CDA締結から契約に至るまでの期間(中央値)は 14 か月
2024年には、現在有効なCDA締結先から2社との契約締結を目標とする。2025年以降も毎年2社と契約締結するため、その数に見合うCDA数の獲得を目指す



※第2四半期以降、新規CDA締結が1社追加され計5社に

RNA標的的低分子創薬におけるAIの活用に関するレビュー論文

当社はAIを活用したRNA標的的低分子創薬の可能性を最大限に引き出すことにおいて、海外よりリーディングカンパニーとみなされている
主席研究員森下は、海外の専門誌より依頼を受け、AIの活用についてレビュー論文を発表した

EXPERT OPINION ON DRUG DISCOVERY
2024, VOL. 19, NO. 4, 415–431
<https://doi.org/10.1080/17460441.2024.2313455>

Taylor & Francis
Taylor & Francis Group

REVIEW

OPEN ACCESS [Check for updates](#)

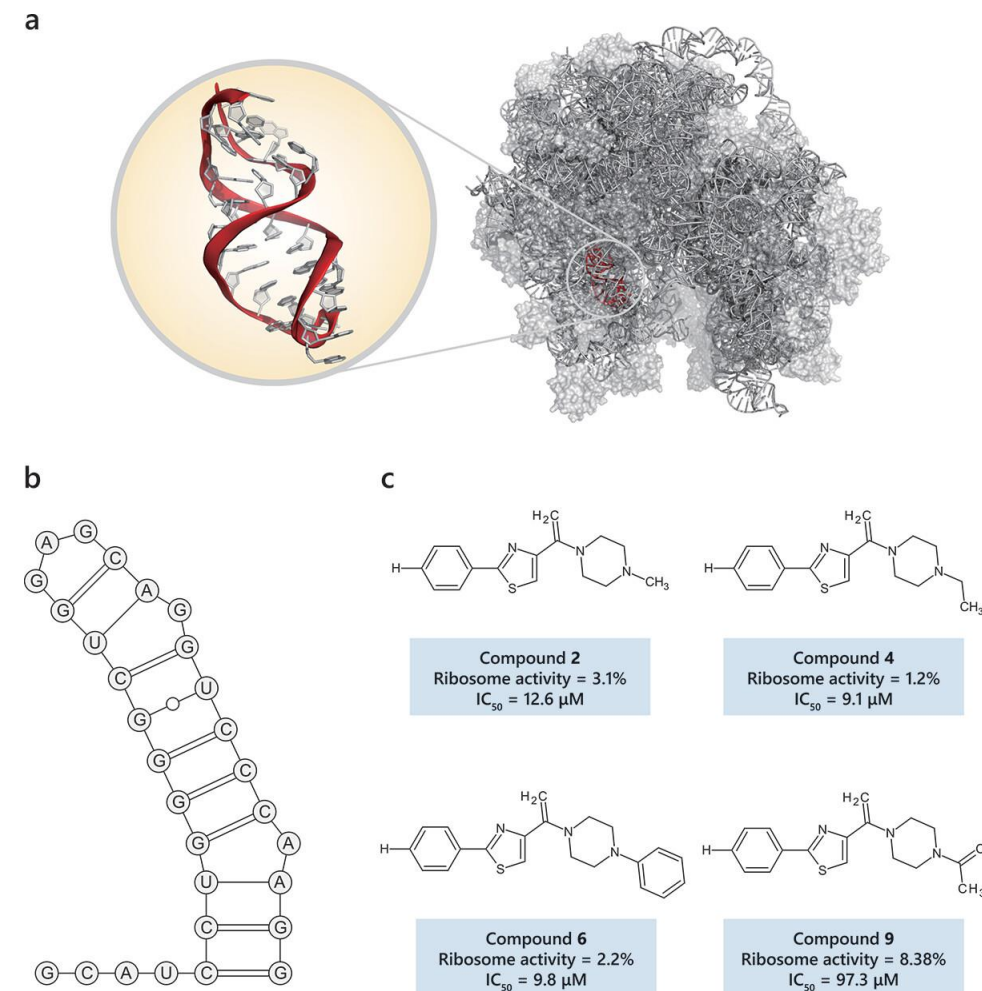
Recent applications of artificial intelligence in RNA-targeted small molecule drug discovery

Ella Czarina Morishita  and Shingo Nakamura
Veritas In Silico Inc, Tokyo, Japan

ABSTRACT
Introduction: Targeting RNAs with small molecules offers an alternative to the conventional protein-targeted drug discovery and can potentially address unmet and emerging medical needs. The recent rise of interest in the strategy has already resulted in large amounts of data on disease associated RNAs, as well as on small molecules that bind to such RNAs. Artificial intelligence (AI) approaches, including machine learning and deep learning, present an opportunity to speed up the discovery of RNA-targeted small molecules by improving decision-making efficiency and quality.
Areas covered: The topics described in this review include the recent applications of AI in the identification of RNA targets, RNA structure determination, screening of chemical compound libraries, and hit-to-lead optimization. The impact and limitations of the recent AI applications are discussed, along with an outlook on the possible applications of next-generation AI tools for the discovery of novel RNA-targeted small molecule drugs.
Expert opinion: Key areas for improvement include developing AI tools for understanding RNA dynamics and RNA – small molecule interactions. High-quality and comprehensive data still need to be generated especially on the biological activity of small molecules that target RNAs.

ARTICLE HISTORY
Received 31 October 2023
Accepted 30 January 2024

KEYWORDS
Artificial intelligence; deep learning; hit-to-lead optimization; machine learning; RNA structure; RNA-targeted small molecule drugs; target identification





2 財務ハイライト

Financial Highlights

2024年12月期 第2四半期(中間期)業績概要

mRNA標的低分子創薬事業にて各パートナーとの共同創薬研究が各々順調に進捗
事業収入は研究支援金やマイルストーン収入等、合計115百万円を計上

要約損益計算書 (単位:百万円)

	2024/6期 中間会計期間
事業収益	115
事業費用	182
営業利益	△ 66
営業外損益	△ 22
経常利益	△ 88
中間純利益	△ 90

主な内訳 (単位:百万円)

うち 研究支援金等 55
マイルストーン収入 60

うち 研究開発費 70
販売費及び一般管理費 112

うち 上場関連費用 12
新株発行費用 9

※ 2023/6期には四半期財務諸表等を作成していないため、前年同期との比較は省略しております

財務状況の推移

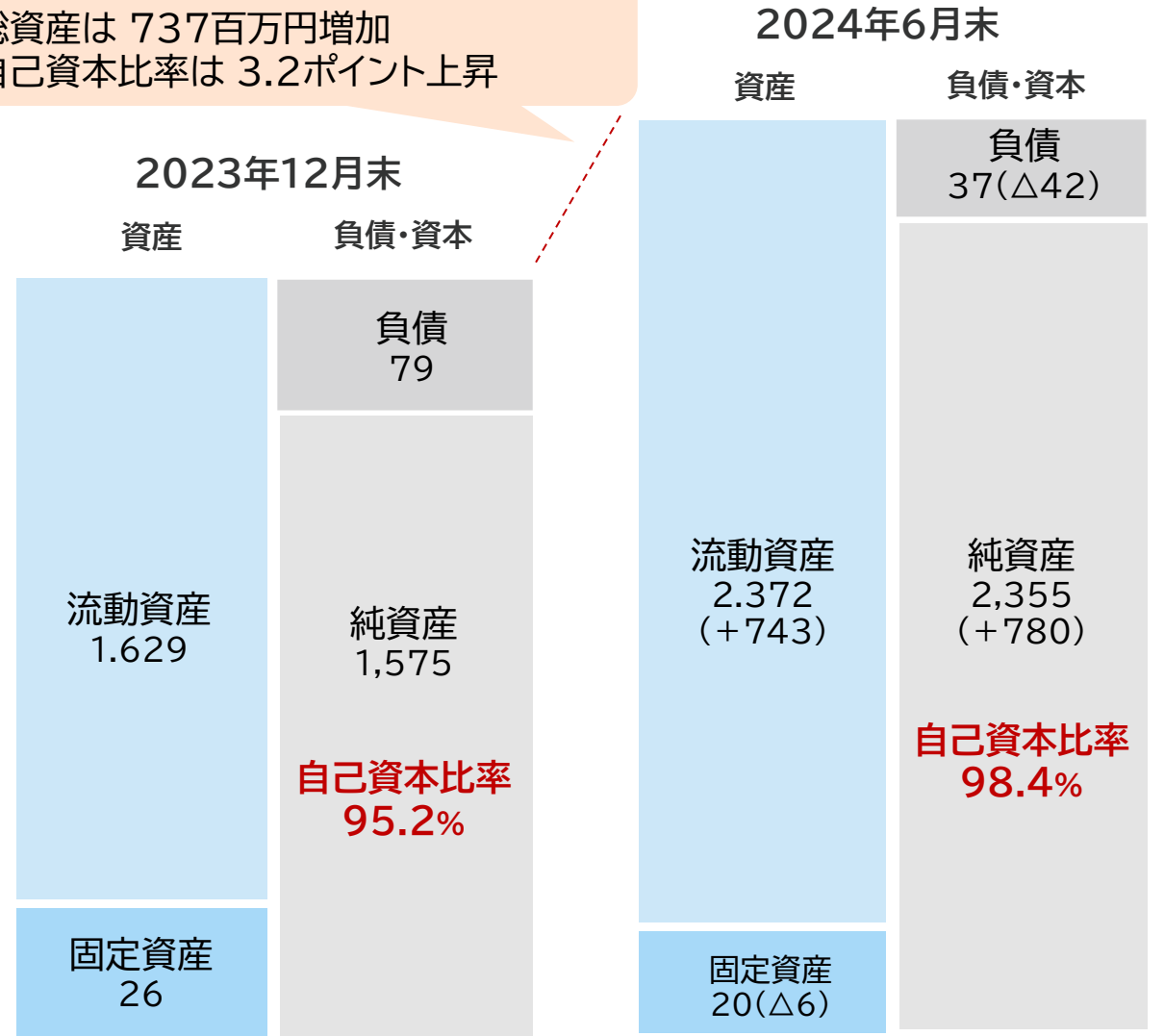
東証上場時の公募増資等により、流動資産が増加、自己資本比率が上昇
資本金は 2024年4月の減資により減少

貸借対照表の推移 (単位:百万円)

	2023/12期末	2024/6期末
現金及び預金	1,549	2,256
流動資産合計	1,629	2,372
有形固定資産	23	18
固定資産合計	26	20
資産合計	1,655	2,393
負債合計	79	37
資本金	90	77
純資産合計	1,575	2,355
負債純資産合計	1,655	2,393

バランスシート推移

総資産は 737百万円増加
自己資本比率は 3.2ポイント上昇



キャッシュ・フローの状況

東証上場時の公募増資等により、現金及び現金同等物が増加

要約 中間キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)

	2024年 1~6月
現金及び現金同等物 期首残高	1,549
営業活動による キャッシュ・フロー	△ 139
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 1
財務活動による キャッシュ・フロー	848
現金及び現金同等物 増減額	707
現金及び現金同等物 中間期末残高	2,256

主な内訳 (単位:百万円)

うち 税引前中間純損失 △ 88
 売上債権の増加 △ 23
 前受金の減少 △ 12
 前渡金の増加 △ 11

うち 有形固定資産の取得 △ 1

うち 新株式発行 861
 上場関連費用 △ 12



3

事業概要

Business Overview

会社概要

mRNA標的低分子創薬に取り組む プラットフォーム型のバイオテック企業

会社名	株式会社Veritas In Silico (VIS)
設立	2016年11月17日
本社	東京都品川区西五反田一丁目11番1号
事業所	基礎研究部門:神奈川県川崎市 応用研究部門:新潟県新潟市
代表者	代表取締役社長 中村 慎吾
従業員数	14名 (2024年6月末現在)
資本金	77,175千円 (2024年6月末現在)
事業内容	独自の創薬プラットフォーム ibVIS® により、 製薬会社と共同創薬研究を通じて、 mRNA標的的低分子医薬品の創出に取り組む



基礎研究部門

(かわさき新産業創造センター内)



応用研究部門

(新潟薬科大学内)

沿革

設立以降、実績を積み上げて着実にmRNA標的的低分子事業を拡大

事業会社からの支援のもと、特徴ある研究・創薬パートナーと共にmRNA標的的低分子創薬を推進



研究・創薬
パートナー



2016

2017

2018

2019

2020

2021

2022

2023

2024

出資者
(事業会社)

三菱ガス化学
(製造)

KDDI
(IT)

mRNA標的的低分子創薬の
プラットフォーム事業開始

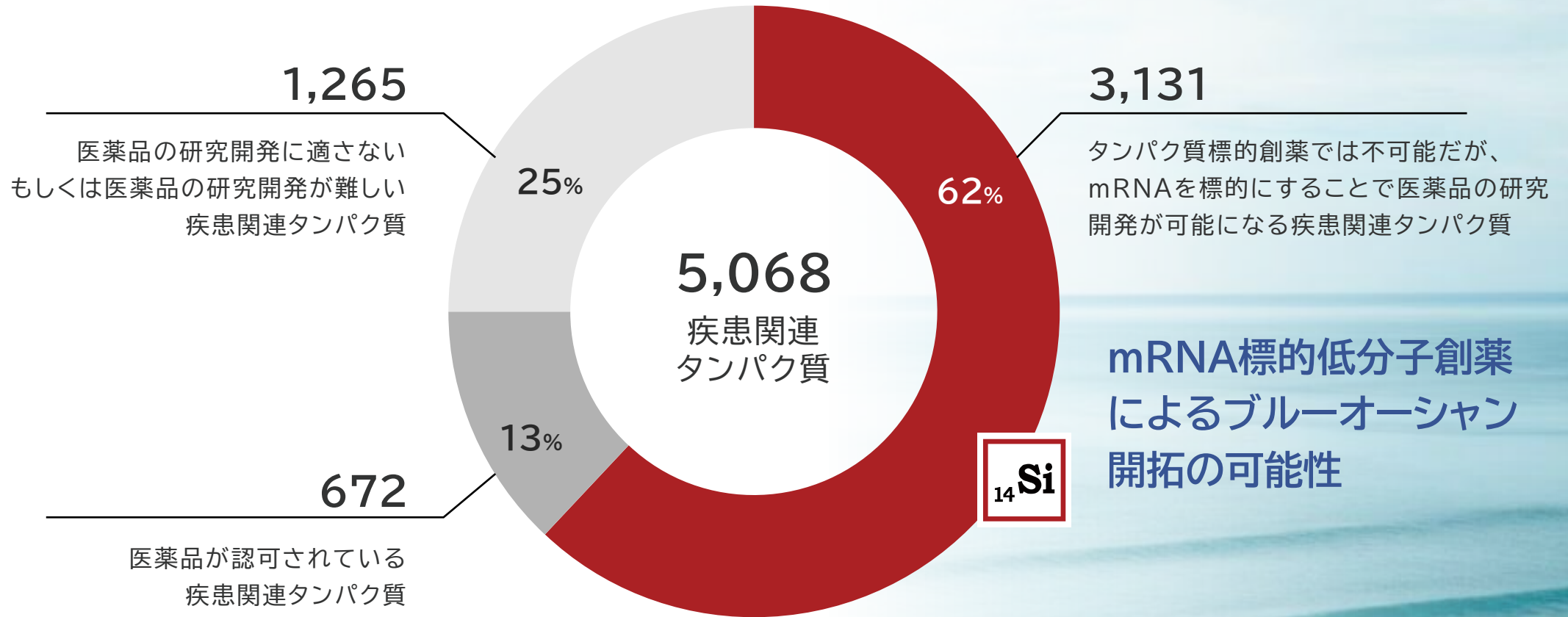
mRNA標的的低分子創薬の
ビジネスモデル特許取得(日本)

2024年2月、東京証券取引所
グロース市場に株式を上場

(注) 現在、東レ、塩野義製薬、ラクオリア創薬、武田薬品の4社と共同創薬研究を実施中

治療“できない”を“できる”にするmRNA標的 low 分子創薬

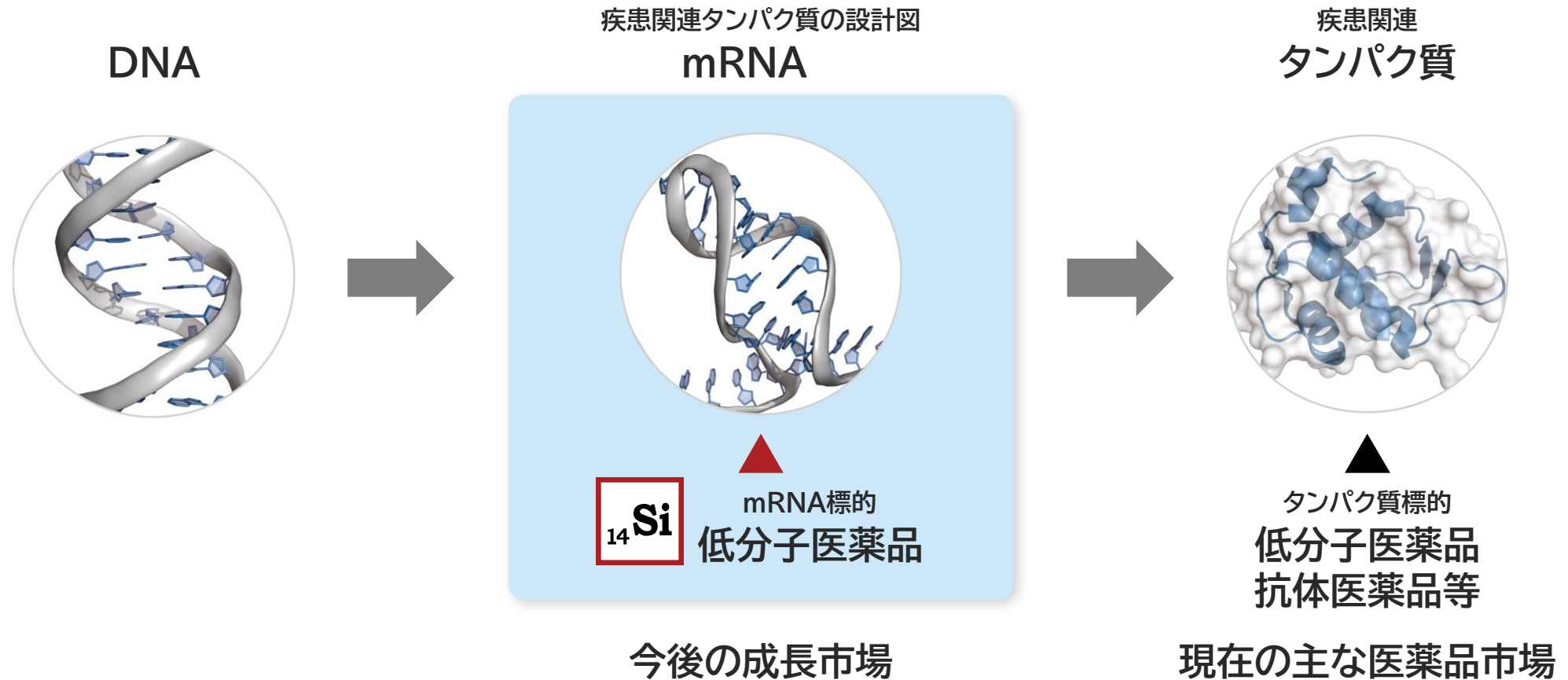
従来のタンパク質を創薬標的とした創薬技術では“Undruggable(創薬不可能)”な疾患もmRNAを創薬標的とすることで“Druggable(創薬可能)”に新しい創薬アプローチであるmRNA標的 low 分子創薬により、疾患関連タンパク質において大きな割合を占めるブルーオーシャンを開拓できる可能性がある



出典: The Human Protein Atlas, DrugBank, KS analysis, 2018 をもとに当社にて作成

ブルーオーシャンでmRNAを標的とした低分子医薬品を創出

当社は、タンパク質の設計図であるmRNAを創薬標的として、経口投与が可能で医療経済的に望まれている低分子医薬品の創出を目指す
現時点において本創薬で上市された低分子医薬品はないが、ブルーオーシャンで低分子創薬に取り組めることから将来的な市場の成長が期待できる



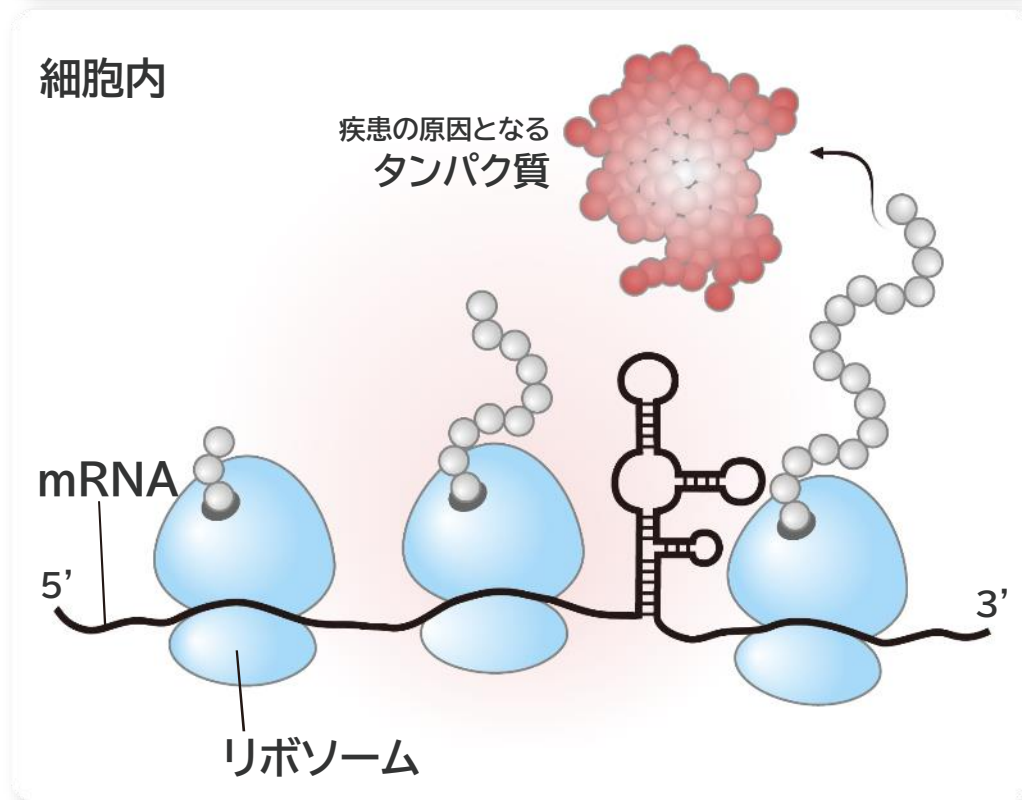
(注) mRNA標的の低分子医薬品の研究開発は世界的に見てもほとんどが研究段階であり、本創薬で上市された低分子医薬品はありません(2024年6月末現在)

さまざまな疾患の治療に適用できる汎用性のある作用メカニズム

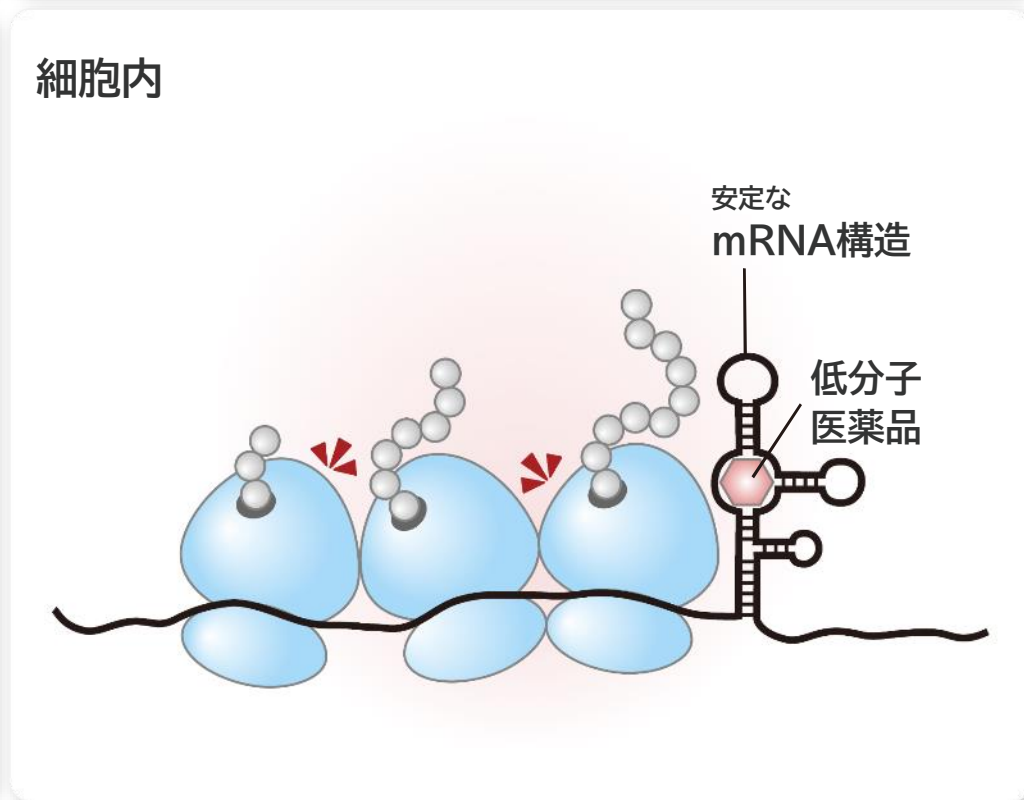
細胞内では、タンパク質の設計図であるmRNAの情報をリボソームが左から右(下図)に読み取ることでタンパク質が合成される

低分子医薬品によりmRNA上の構造が安定化されると、リボソームはmRNAの情報を読み進めることができなくなりタンパク質の合成はストップする

低分子医薬品なし



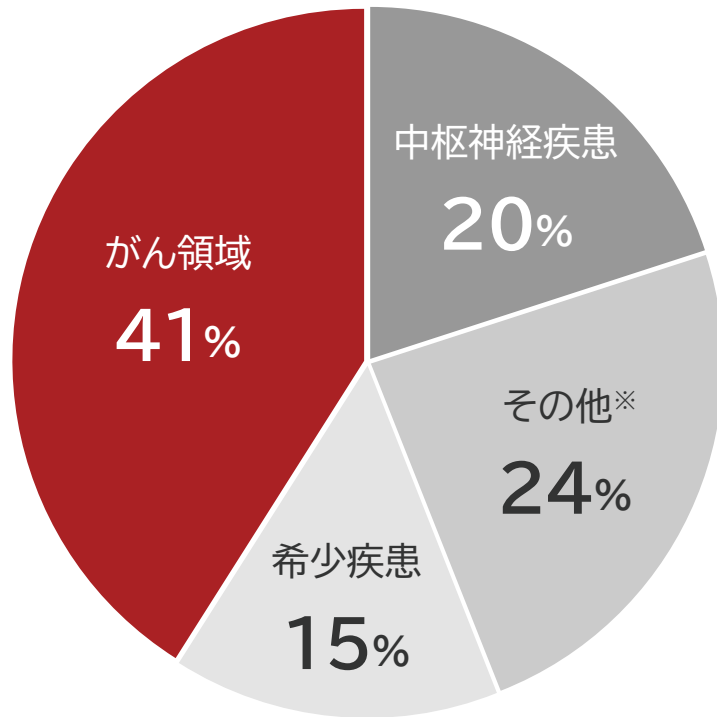
低分子医薬品あり



ibVIS[®]で未だ満たされない医療ニーズに応える

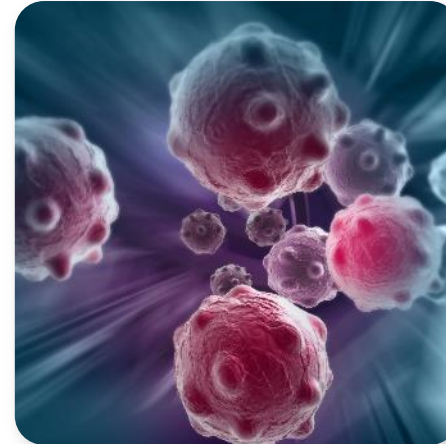
当社の創薬プラットフォームibVIS[®]を紹介した製薬会社から開示された創薬対象遺伝子(GOI)は100以上で、疾患領域は多種多様である。創薬の専門家から見ても、ibVIS[®]は様々な疾患に適用可能であることを示唆している。特にがん領域は突出しており、中枢神経疾患がそれに続く。

GOIからわかる疾患領域(注)



* 循環器疾患、免疫疾患、感染症などを含む

(注) 2024年6月末現在において製薬会社から開示されたGOIに基づき当社にて作成



がん領域

がんはメカニズムが多様であり、従来創薬では治療できないがんが多く存在する。患者数が多いため、大量供給可能な低分子新薬の開発が望まれる



中枢神経疾患

脳(中枢神経)の血液脳関門(BBB)は神経細胞に影響のある物質をブロックする保護システム。中枢神経疾患の治療にはBBBを通過する低分子医薬品が有効

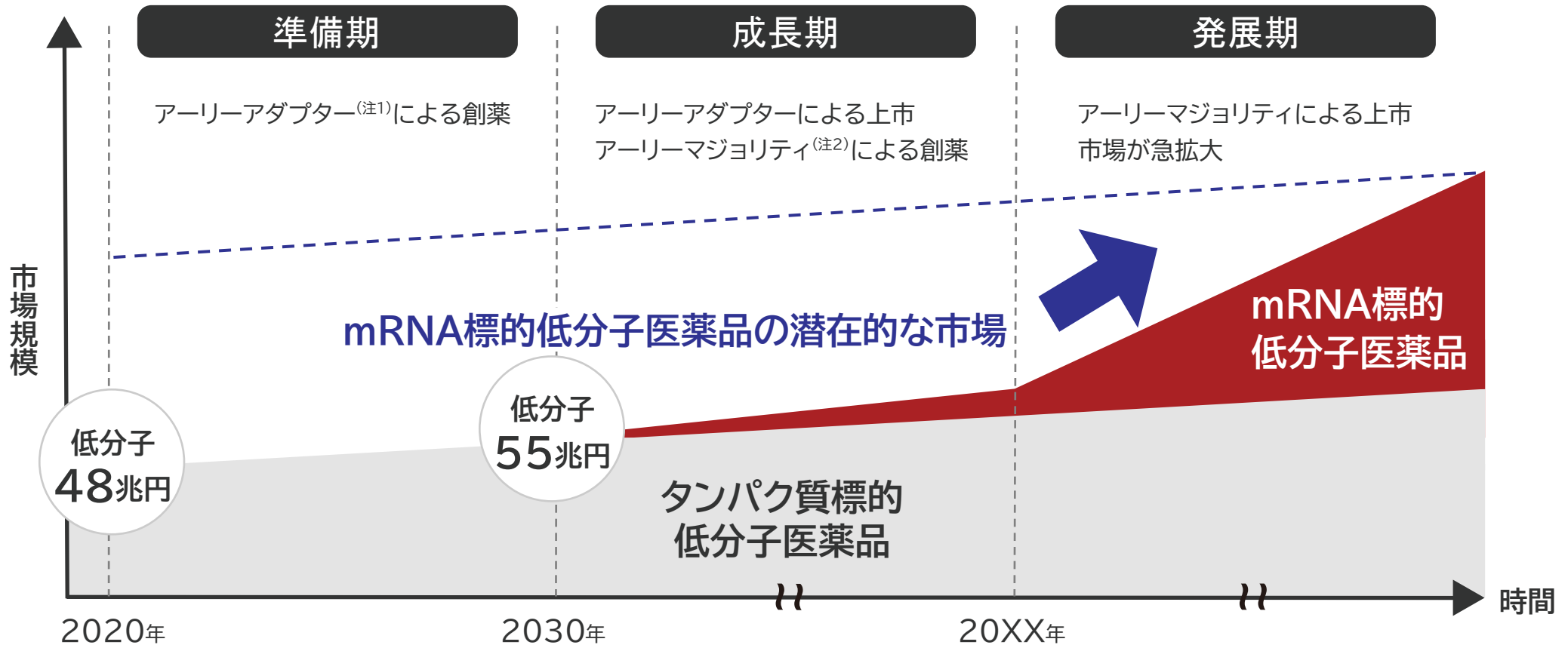


4 ビジネスモデル

Business Model

タンパク質標的に匹敵するmRNA標的 low 分子医薬品の潜在市場

mRNA標的 low 分子創薬は現在**準備期**。当該創薬により low 分子医薬品が市場に出れば、“Undruggable”だった疾患に対して研究開発が一気に広まるため**(成長期)**、mRNA標的 low 分子医薬品の市場は、将来的にタンパク質標的 low 分子医薬品に匹敵する大きな医薬品市場となる**ことが期待できる(発展期)**



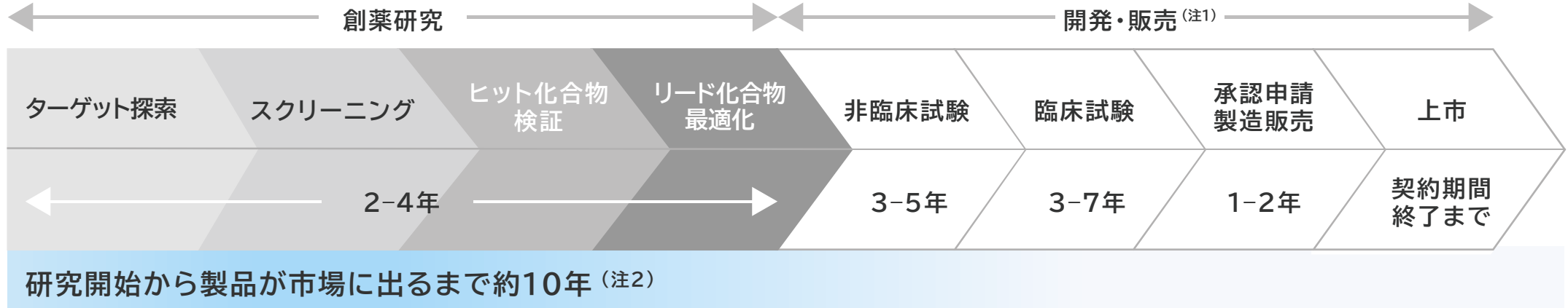
(注1) 初期採用者とも呼ばれ、イノベーター(革新者)の次に商品やサービスを購入する人々
(注2) 前期追随者とも呼ばれ、アーリーアダプターからの影響を受ける人々

出典: 当社推定

低分子医薬品の市場規模(※)は、内閣官房 健康・医療戦略室委託事業「令和二年度 医薬品・再生医療・細胞治療・遺伝子治療関連の産業化に向けた課題及び課題解決に必要な取組みに関する調査報告書」より抜粋

創薬研究の初期から長期にわたり安定した事業収益を実現

当社と製薬会社との共同創薬研究契約では、当社の創薬プラットフォームibVIS®の使用に対して創薬研究の初期から事業収益が得られる開発・製造・販売権のライセンス以降も、創薬研究における当社の貢献に応じて収益が得られるプラットフォーム型の契約を締結している



契約一時金	契約締結時に一時金として受け取る事業収益
研究支援金	研究実施等に対する対価として創薬標のごとに受け取る事業収益
マイルストーン	研究・開発・売上の進捗に応じて、事前に設定したイベントを達成した際に受け取る事業収益
ロイヤリティ	医薬品販売開始後に年間の売上高に応じて受け取る事業収益

(注1) 現時点(2024年6月末現在)、製薬会社による開発・販売ステップにまで進んだ実績はありません
 (注2) 上市までの期間については、実際の研究開発状況により大きく異なる可能性があります
 (注3) ibVIS®を使用した当社と製薬会社の協業は、創薬研究期間中に限られます
 (注4) 開発・製造・販売ライセンスに関する取り決めについては、共同創薬研究契約に盛り込まれる場合があります



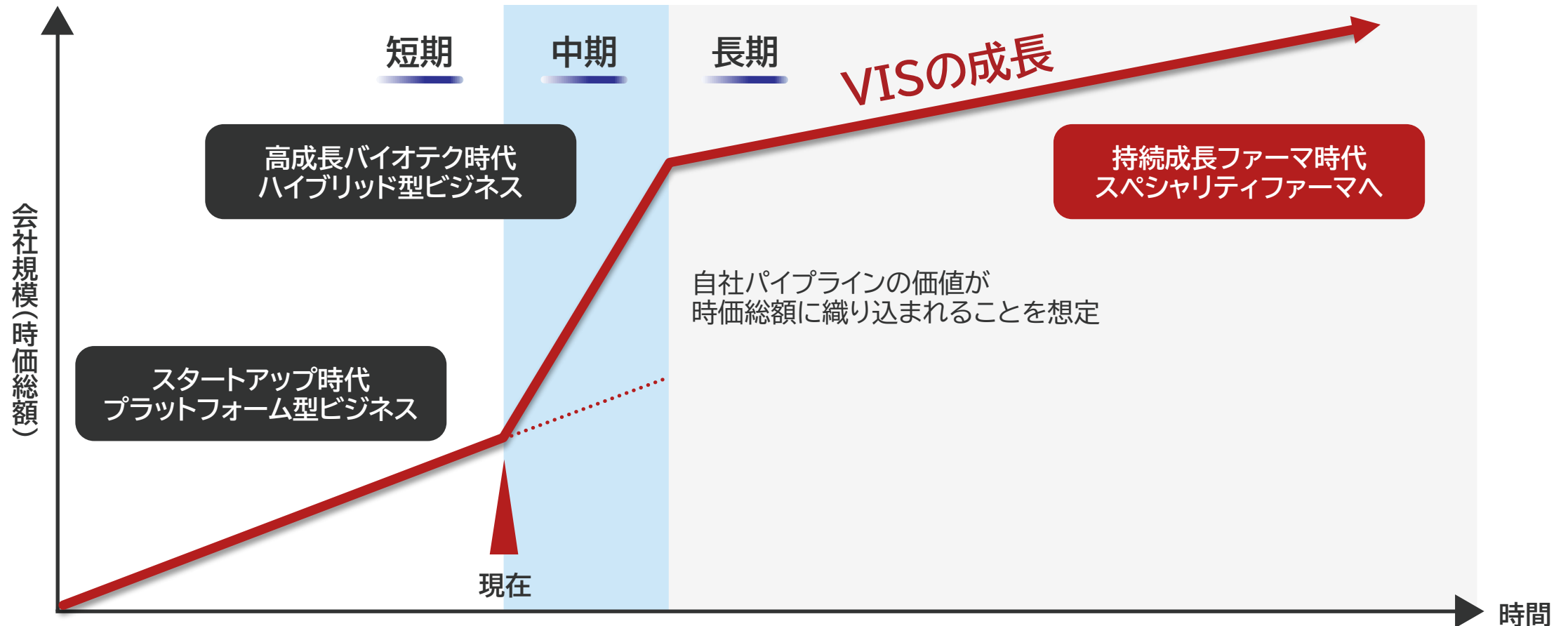
5 成長戦略

Growth Strategy

スタートアップ・バイオテック企業から持続成長可能なスペシャリティファーマへ

当社は現在、プラットフォーム型ビジネスから高成長を目指すハイブリッド型ビジネスへの転換を図っている

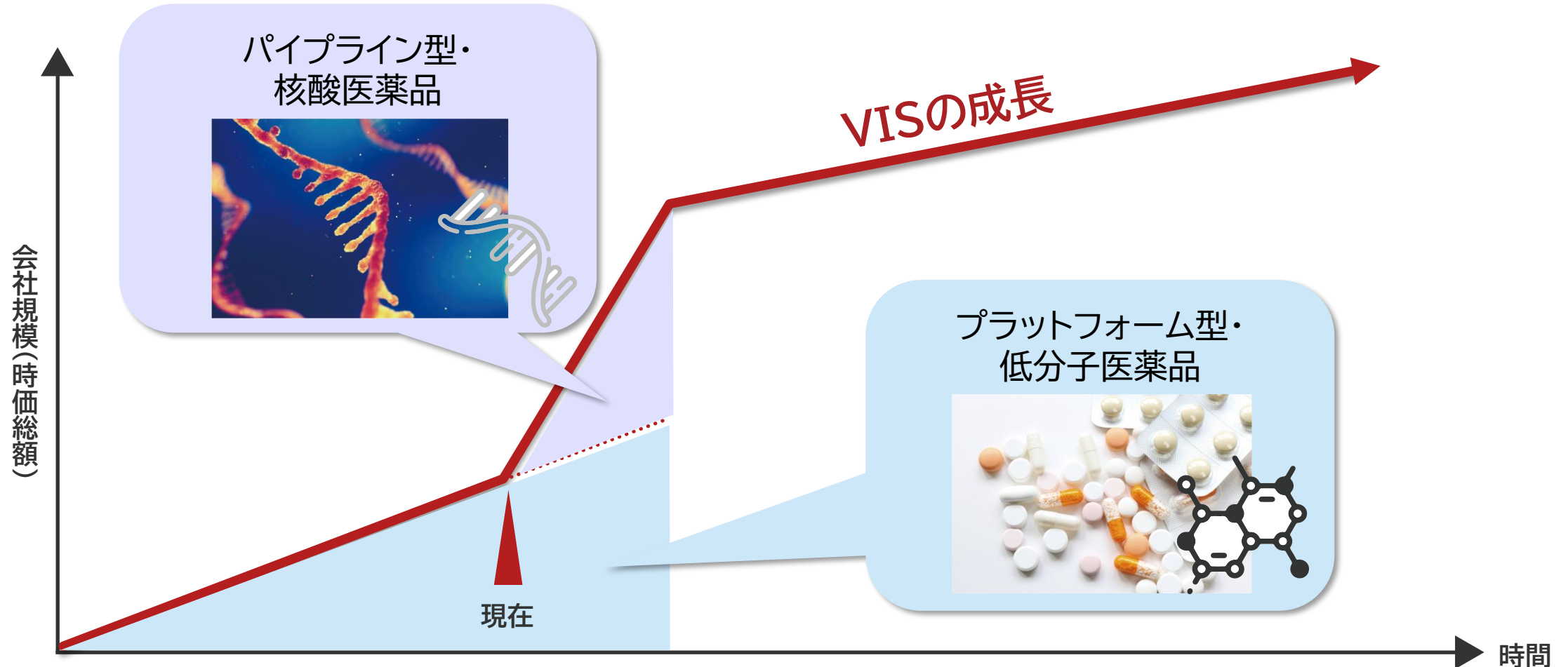
最終的には、持続的な成長を遂げるため、mRNA関連の創薬を主軸とし、研究開発・販売機能等を備えた製薬会社(スペシャリティファーマ)へ移行する方針



(注) あくまでも当社が目標とする成長のイメージであり、実際の時価総額の推移を示唆するものではありません

スペシャリティファーマの前段階としてハイブリッド型ビジネスに転換

mRNA標的 low molecular weight 医薬品のプラットフォーム型ビジネスを拡大しつつ、核酸医薬品を中心に自社バイプラインの創出を目指す



(注) あくまでも当社が目標とする成長のイメージであり、実際の時価総額の推移を示唆するものではありません

mRNA関連創薬の事業の多角化による持続的成長を目指す

当社のインシリコRNA構造解析は、mRNA関連の様々な創薬に応用可能。ハイブリッド型ビジネスに転換するにあたり、核酸医薬品を自社パイプラインの有力候補とする。これらに加え、アカデミア・企業との共同研究等を通じてmRNA医薬品とncRNA標的医薬品を事業の一つとすることで、将来的な事業の多角化を図る



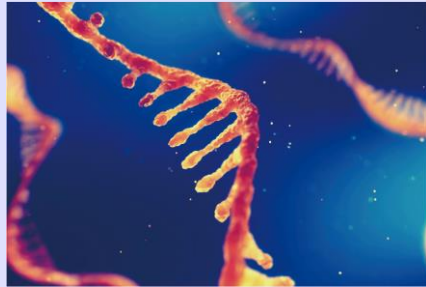
01



mRNA標的の低分子医薬品

タンパク質標的の低分子創薬では技術的に解決できない治療ニーズや、抗体等、高価な治療法しかない治療ニーズへの解決策となる

02



核酸医薬品(mRNA標的)

副作用が少なく細胞膜透過性の高いシンプルな核酸医薬を創出する希少疾患の治療ニーズへの解決策となる

03



mRNA医薬品

医療用のmRNAの配列を設計するタンパク質補充療法に代わる治療ニーズへの解決策となる

04



ncRNA標的医薬品

タンパク質の設計図ではないRNA(ncRNA)を制御する低分子医薬品・核酸医薬品を創出する

これまでアプローチできなかったODSの顧客層との契約締結を目指す

ODS主催でmRNA標的の低分子創薬を啓発するウェビナーを2024年3月に開催。これをきっかけに欧州製薬企業とCDAを締結し、現在契約交渉中。当社が欧州に進出するにあたり、製薬会社と契約交渉および契約締結後の共同創薬研究において、ODSは当社の強力なパートナーとなっている。

会社名	Oncodesign Services (ODS)
代表者	Fabrice Viviani, President and CEO
設立年	1995年
社員数	230名 (PhD取得者 22%)
顧客数	1,000
WEB	https://www.oncodesign-services.com/

2024年6月末現在

出典:Oncodesign Services社のウェブサイト

The image shows a webinar slide with a dark blue background and a DNA double helix graphic. The text on the slide includes the Oncodesign Services logo, the word 'Webinar', and the title 'How to target RNA modulation with small molecule?'. Two speakers are featured in circular frames: Dr. Ella Morishita, Senior Investigator at Veritas In Silico, and Dr. Maria Duca, Research Scientist at Université Côte d'Azur. A red rectangular box highlights the speaker information for Dr. Ella Morishita.

当社の主席研究員森下がスピーカーとして登壇

社会や環境の持続可能性に配慮した経営

製薬会社やアカデミアとの連携を通じ、低分子医薬品の創出に真摯に取り組むことにより、より多くの患者さまの健康と福祉に貢献する社会の科学技術力の向上や働きがいのある企業風土の醸成等を通じて、社会や環境の持続可能性に配慮した経営を実践する

事業活動に内在 した取り組み

- 希望に満ちたあたたかい社会を実現するために
- ◆ 新規の創薬技術で未だ満たされない医療ニーズに応える
 - ◆ 創薬パートナーと革新的な医薬品の創出に取り組む

事業基盤を構築 する取り組み

- ◆ 優秀な人材の確保と育成
- ◆ 働きがいのある企業風土の醸成
- ◆ 人材の多様化と一人ひとりを活かす組織づくり
- ◆ 働きやすい職場環境（年次有給休暇取得の促進）
- ◆ 従業員の健康管理・増進
- ◆ グリーン購入法に沿った購買

サステナブルな社会の実現 科学技術の持続性 に向けた取り組み

- ◆ mRNAに関するアカデミアとの共同研究を通じた当社の科学力の向上
- ◆ 大学等教育機関での講義・講演を通じたアカデミアに対する貢献

社会の科学力の持続性に向けた取り組み

アカデミアとの共同研究や講義・講演を通じて、当社創薬技術の向上を図るとともに、日本の科学技術の向上ひいては持続可能な社会の実現に貢献する

mRNAに関するアカデミアとの共同研究

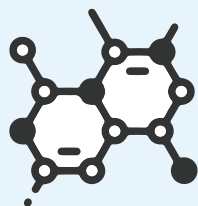
大阪大学 2件

千葉工業大学

上智大学

東京農工大学

甲南大学



mRNA標的
低分子医薬品

新潟薬科大学

東京慈恵会医科大学

Stanford大学



核酸医薬品

教育機関等での講義・講演

毎年実施の講義

東京工業大学

千葉工業大学

2024年実施の講演

日経ビジネスフォーラム

有機合成化学協会

mRNAターゲット創薬研究機構

LINK-J 創薬のフロンティア



理念

mRNA標的低分子創薬で 希望に満ちたあたたかい社会の実現を

創薬のフロンティアを
切り拓くパスファインダー
(Pathfinder)として

どんな疾患の患者様も
最適な治療が
受けられるように



Veritas In Silico